

水害時の衛生対策と消毒方法について

台風や集中豪雨などにより、家屋等が浸水した場合、洗浄や消毒が必要になることがあります。

1 家屋等が浸水した場合

豪雨等により家屋などが浸水した場合、洗浄や拭き取りにより十分に汚れを除去して、乾かした後、消毒するようにしてください。

(消毒は、汚れのない状態でないと、効果を発揮することができません。)

2 衛生対策について

家屋等が浸水した場合、次のとおり洗浄及び衛生対策を行ってください。

◆床上の場合

室内は、食事や睡眠など生活を行う場所のため、泥や汚れを十分に取り除いた後、消毒を行いましょう。

- ① 水が引いた後、濡れた畳や家の中の不要な物を片付けてください。
- ② 汚れた家具や床・壁などは、水で洗い流すか、雑巾で水拭きするなどしてください。
- ③ 食器類や調理器具などは、水洗いして汚れをきれいに洗い流してください。
- ④ 食器棚や冷蔵庫などは、汚れをきれいに拭き取ってください。

◆家の周囲や床下の場合

土砂等を取り除いた後、水道水で洗い流し、しっかり乾かすことが重要です。

床下に土砂や水分が残っている場合、その湿気により、家の基礎や土台（床組）などに影響が出る場合があります。

- ① 汚泥や不要なものなどを片付けてください。
- ② 庭木や外壁についた泥は、水で十分に洗い流してください。
- ③ 床下換気口のごみを取り除き、床下の風通しを良くしてください。
- ④ 床下はスコップや流水を用いて汚泥を取り除いた後、雑巾などで水気をなくし、扇風機などにより強制的に換気し、乾燥させてください。

◆食中毒、感染症の予防について

- ① 受水槽は、安全と衛生を点検・確認してから使用してください。
- ② 水に浸かった食品や、停電により保存温度が保てなかった要冷蔵・冷凍食品はできるだけ廃棄してください。
- ③ からだに異常を感じたら早めに医療機関で受診してください。
- ④ 食事の前や用便の後などは、しっかりと手を洗ってください。

3 消毒方法について

消毒薬は、過剰に使用すると人の健康や環境へ影響を与えることがあります。使用は必要最小限としましょう。使用の際には、取り扱い説明書に従い、事故が起こらないよう注意してください。

<参考>消毒方法の例

(※色々な濃度のものが市販されているので希釈倍率には注意してください。)

消毒対象	消毒薬	調整方法 (例)	使用方法
屋内 (汚水に浸かった壁面や床、家財道具)	0.1%塩化ベンザルコニウム (逆性石けん)	10%塩化ベンザルコニウム 10mlに水を加えて1Lとする。	泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させた後、調整した液を浸した布などでよく拭く。 (噴霧器を使用する場合は、濡れる程度に噴霧する。その後、風通しをよくしてそのまま乾燥させる。) 消毒は汚れが残っていたり、濡れている状態で行うと十分な効果を発揮することができません。
手指 (後片付けなどで、汚染された箇所や土に触れた手指)			汚れを石けんで洗ったあと、流水で石けんをよく落とし(石けんが残っていると殺菌力が低下します。)、洗面器などに入れた調整後の消毒液に手首まで浸し、30秒以上もみ洗いする。その後、乾いたタオルなどで、よくふき取る。
食器類	0.02%次亜塩素酸ナトリウム (家庭用塩素系漂白剤でも可)	10%次亜塩素酸ナトリウム 2mlに水を加えて1Lとする。	食器等を水洗いした後、調整した消毒液に5分以上浸し、自然乾燥させる。(家庭用塩素系漂白剤を用いた場合は、水ですすぐ。)

※ 消毒薬を取り扱う際にはゴム手袋、マスク、ゴーグルなどを使用するとともに、皮膚や目にかからないように注意してください。また、皮膚についた場合、水と石鹼でよく洗い流し、目に入った場合は、水で15分以上洗い流し、医師の診察を受けてください。

※ 消毒液をペットボトルへ移し替えないでください。誤って飲んでしまう事故につながる可能性がありますので、必ず使い切ってください。また、他の消毒液や洗剤と混ぜないでください。

※ 消毒液の入っていたバケツやじょうろなどは、使用後、十分に水で流してください。

※ 床下の消毒・乾燥用に消石灰を撒くことについては、用法や効果について明確に示されたものはありません。

消石灰は、水に溶けると強アルカリ性となるため、使用する場合には、目や皮膚につかないように、また、口に入らないように十分注意してください。

住田町保健福祉課

電話：46-3862 FAX：46-2489